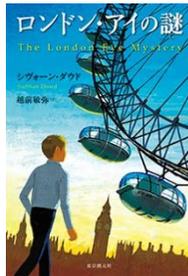




『目で見ることばで話をさせて』
アン・クレア・レゾット/作
横山和江/訳 岩波書店
手話とろう文化が根付く小さな島で、メアリーは生き生きと暮らしていた。ところが、島にやってきた科学者に誘拐され、彼女は自由を奪われてしまう。手話を共通言語とした実在の島を舞台に描かれる歴史物語。



『両手にトカレフ』
ブレイディみかこ/著 ポプラ社
過酷な家庭環境で生活するミアは、ある少女の自伝本と出会い、その生き方に共感を覚える。そんなミアにクラスメイトからラップのリリックを書いてみないかと声がかかる。迷い悩みながらも、ミアは心の裡にある激情を言葉にしていく。



『ロンドン・アイの謎』
シヴォーン・ダウド/著 越前敏弥/訳 東京創元社
巨大観覧車ロンドン・アイに乗っていたいとこのサリムが突然消えた!?手掛かりがみつからない中、「すべてはどう見るかによってちがう」と考えるテッドは姉のカットと共に大人顔負けの推理と行動でその謎に挑む。

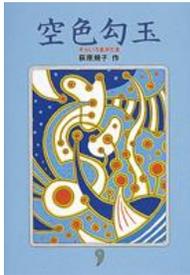


『私たちのサステナビリティ』
工藤尚悟/著 岩波書店
社会に広がる「サステナビリティ」や「持続可能性」という言葉。よく耳にするけれどイメージが掴みづらい概念が、わかりやすい言葉で解説されている。私たちが生きていく社会の未来を考えるきっかけに。

Check it out! ~これもおすすめ~



『同志少女よ、敵を撃て』
逢坂冬馬/著 早川書房
独り戦の中、ドイツ兵に村を襲われたセラフィマは女性だけの狙撃兵の集団に入り仇を討とうとする。男性が大半を占める戦場で女性が戦う意味とは。真の敵とは誰なのか。史実を基に語られる女性狙撃兵たちの物語。



『空色勾玉』
荻原規子/作 徳間書店
輝の一族に育てられた娘・狭也は、夢の中で自分を追ってきた「鬼」と現実世界で会い、自分が闇の氏族だと告げられる。狭也は反発するが、輝の大御神の子・稚羽矢との出会いが彼女の運命を変えていく。古代の日本を舞台に繰り広げられる壮大なファンタジー。



『ライ麦畑でつかまえて』
J.D. サリンジャー/著 野崎孝/訳 白水社
16歳のホールデンは、通っていた名門高校を退学処分になった。両親に合わせる顔がない彼は自宅に戻らず、ニューヨークの街を転々とする…。思春期の青年の心の揺れが描かれた名作。
村上春樹の新訳『キャッチャー・イン・ザ・ライ』と読み比べるのもおすすめ。

10代のためのブックリスト ルックブック 2023

発行日 令和5年 3月
発行 くにたち中央図書館
国立市富士見台 2-34
042-576-0161

10代のためのブックリスト

ルックブック 2023

LOOK
BOOK





2022年に刊行された作品を中心に、10代に読んでほしい本を紹介しています。



『アップステージ』

ダイアナ・ハーモン・アシャー/作
武富博子/訳 評論社
目立つことが嫌いなシーラは学校で行うミュージカルの役に指名されてしまう。それも男性役!?最初は浮かない様子の彼女だったが、歌の練習を通して仲間たちと意気投合していく。はたしてミュージカルは成功するのか?



『笹森くんのスカート』

神戸遥真/著 講談社
夏休み明けに笹森くんがスカートを着てきた。確かにジェンダーフリーの制服が導入されているけれど、彼はいわゆるLGBTQなの?それとも別の理由があるの?同級生たちによる、笹森くんをめぐる物語。



『“正しい”を疑え!』

真山仁/著 岩波書店
“正しい”とは多くの人と同じ考えを持つことなのか?相手の考えを真に理解するとはどういうことなのか?多様な価値観があるこの世界で、著者は、“正しい”に向き合う力を鍛える方法を紹介していく。



『アンネの日記』グラフィック版

アンネ・フランク/著 アリ・フォルマン/編
深町眞理子/訳 あすなろ書房
ナチスから逃れるため、家族とともに秘密の隠れ家に暮らすことになった13歳のアンネ。恐怖や孤独に苦しみながらも、前を向いて強く生きようとするアンネの心が色彩豊かなイラストで表現されている。



『13歳からの地政学』

田中孝幸/著 東洋経済新報社
地球の7割は海。その海は貿易のための船が往来し、海底ケーブルが張り巡らされている。日本のように海に囲まれた国、陸続きで隣接している国、それぞれの地理的な理由から世界の歴史、民俗、情勢を読み解いていく。



『バンピー』

いとうみく/著 静山社
母を亡くし、父も行方不明!でも叔母の助けもあって明るく頑張る4人兄弟の高比良家。ところがある日突然腹違いの妹と名乗る蛭が現れて…。家族って?優しさって?と考えさせられる、ハチャメチャなハートフルストーリー。



『かわいい子ランキング』

ブリジット・ヤング/作 三辺律子/訳
ほるぷ出版
生徒たちのスマホに一齐に送られてきた、学校の「かわいい子ランキング」。美人で派手なソフィーが2位、1位は地味なイヴだったことで校内は騒然。イヴとソフィーはランキングを書いた犯人を見つけようとするが…。



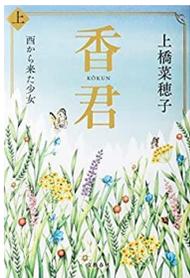
『障害者ってだれのこと?』

荒井裕樹/著 平凡社
「障害者」という言葉で、あなたは何をイメージする?そもそも障害って、差別って、ふつうって何だろう?障害者差別の歴史に向き合いながら、わかるようでわからない問題をさまざまな角度から考えてみよう。



『パンに書かれた言葉』

朽木祥/作 小学館
エリーがイタリアの祖母の家でみつけた古いパンにはある言葉が書かれてあった。それは大伯父が戦時中に残したものだど知り、彼女はその背景を語り聞いていく。言葉の力によって抗った人々が描かれた作品。



『香君』(上下巻)

上橋菜穂子/著 文藝春秋
昔、香りで万象を知る能力を持つ香君と呼ばれた女性がいた。香君がもたらした奇跡の稲によって繁栄したウマル帝国。しかし、大規模な虫害に見舞われてしまう。その時、香君と同じ能力を持つ少女が現れた。少女は民を救えるのか。



『「死んでもいいけど、死んじやだめ」と僕が言い続ける理由』

大空幸星/著 河出書房新社
死を考えざるを得ないほどつらい思いを抱えている人に、著者は「迷わず誰かに頼ってほしい」と語りかける。悩みや孤独を苦しみに変えないための、人への伝え方、頼り方が学べる。著者の強い思いが込められた一冊。



『マスク越しのおはよう』

山本悦子/著 講談社
新型コロナウイルスの流行を機に世界が一変。安心して登校する千里子、ヒョウ柄のマスクをする芹那、フェイスシールドを着ける麦、別人になる沙織、そして感染家族のリアル。非常事態宣言が解除された時、物語は動き出す。